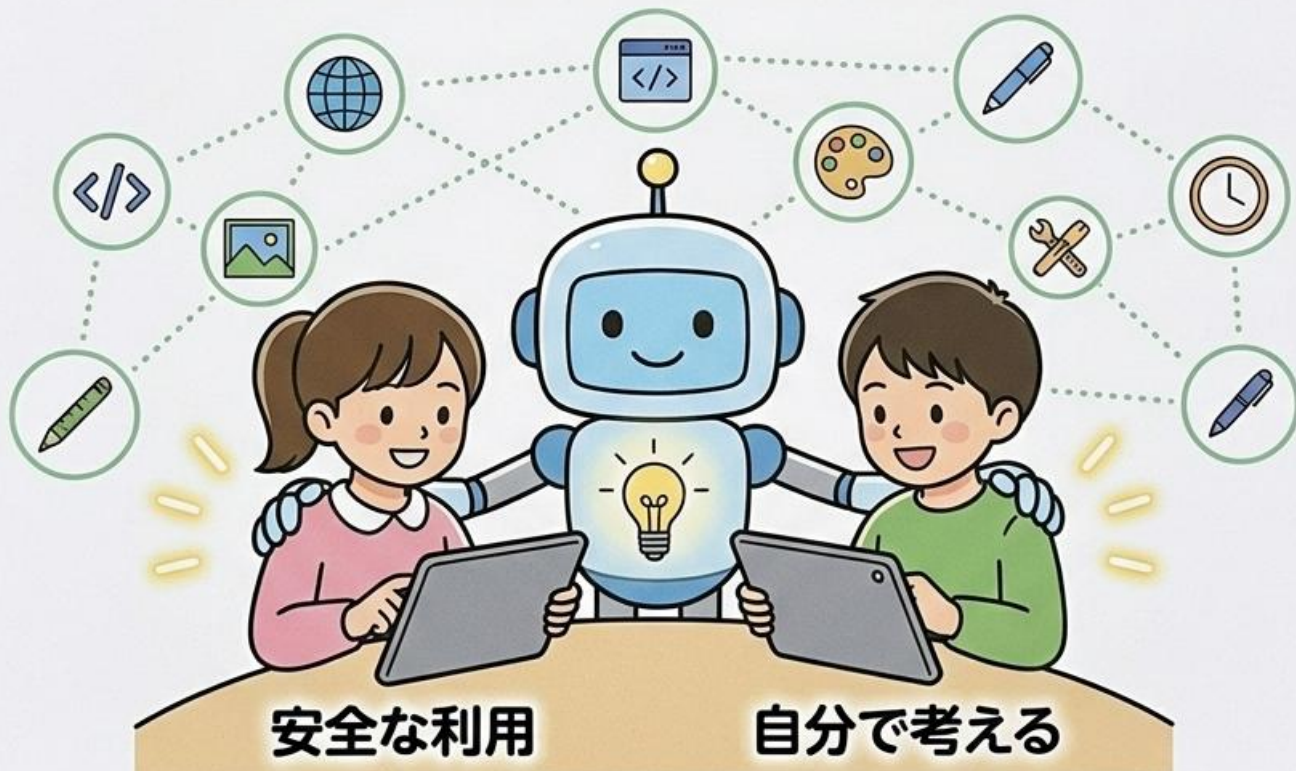


生成AIの利用ルール

正しく・安全に・かしこく使う！
子どもの学びを広げるヒント



保護者のみなさまへ

AI時代を生きる子どもたちへ、正しく使いこなす力を

今、生成AIは、社会や日常生活の中で急速に定着しつつあります。学校では、個人情報の保護や情報の確かさを見極めるルールやモラルの指導を徹底した上で、子どもたちが未来を切り拓くスキルとして、生成AIを正しく、安全に使いこなす教育を行います。

保護者のみなさまへのお願い

○学習用タブレットでの利用に関する同意

生成AIを活用した教育活動の趣旨をご理解いただき、同意書のご提出ください。

○ご家庭での見守りと対話

このリーフレットを参考に、ご家庭でも日常の会話を通して生成AIを正しく、有効に使えているか温かく見守り、一緒に使い方を考える機会にしてください。



阿賀野市教育委員会

生成AIってどんなもの？



みんなの学習をサポートする「アイデアの相談相手」

生成AIは、私たちが入力した質問やお願いに対して、文章や画像を作ったり、アイデアを出したりしてくれる技術のことです。

使う前に知っておくべき3つのこと

使えるのは、指定された教育用AIだけ

使える生成AIは、市が貸与したアカウントでログインした次の3つです。

① Gemini ② Gemini Notebook ③ Canva (AI機能)

学校でも家庭でも、上記以外の生成AIの利用、個人アカウントでの利用は行いません。

「完璧なロボット」ではありません

生成AIは、人間のように体験したり、事実を一つひとつ確かめたりしているわけではないため、間違った情報をまるで本当のように答えることがあります。

責任は「自分」にあり、最後は「人との対話」が大切

生成AIには心や責任はありません。AIがくれるヒントをもとに、家族や先生、友達と話し合って自分の考えを深めることが何より大切です。

利用するときの「3つのルール」

【ルール1】

秘密や個人情報、他人の作品を入力しない！（個人情報、著作権の保護）

情報が外部に漏れる危険を防ぎ、みんなの権利と思いやりの気持ちを守るためです。

【ルール2】

出てきた答えを自分で確かめる！（ファクトチェック）

AIはとても自然な文章で間違った情報（ウソ）を伝えることがあるからです。

【ルール3】

丸写しせず、自分の頭で考える！

AIの答えを丸写しすると、自分で考える力や表現する力がつかなくなってしまうからです。

生成AIの「○と×」(場面ごとの活用例)

場面1：画像やデザイン作成



悪い例

好きなアニメや漫画のキャラクター画像を勝手にAIに読み込ませ、似た絵を作らせたり使ったりする



良い例

自分が描いた絵を読み込ませ「もっとよくなるアドバイスをして」と相談したり、オリジナルのデザイン案を考えたりする



場面2：調べ学習・自由研究

悪い例

AIが出してくれた回答を、本当かどうか調べずにそのまま発表スライドに貼る



良い例

AIに調べ方のヒントを聞き、出てきた情報は教科書や図鑑などで合っているか確かめてからまとめる



場面3：作文や読書感想文

悪い例

「この本の感想文を800字で書いて」と入力し、AIが作った文章をそのまま提出する



良い例

「この本のテーマについて、どんな視点があるかアイデアを教えて」とヒントをもらい、感想は自分の言葉で書く



動画とWebサイトで学ぼう！ 生成A I と情報モラル

【学習用動画「情報モラル教育ポータルサイト」(文部科学省)】



全部正しいの？生成AIって

生成AIの仕組みと「ファクトチェック」について学びます。



そのつかいかた ほんとうに正しい？

夏休みの宿題を題材に、生成AIの正しい活用の仕方について学びます。



うっかり入力？個人情報を守るとは

生成AIの仕組みと個人情報・プライバシーについて学びます。



あなたが作るもの「著作権侵害」してない？

生成AIの回答には、他者の権利を侵害する情報もあることを学びます。



1つの情報で大丈夫？自分で考える情報選びとは

生成AIが作成した情報をそのまま応募・提出するリスクについて学びます。



【学習用コンテンツ「情報モラル学習サイト」(文部科学省)】

動画のあとは問題にチャレンジ！

